

## ○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

どうもきょうは4番目でございますけれども、大変皆さん方お疲れだと思っておりますけれども、しばらくの間、おつき合いのほどをお願いしたいというふうに思います。

先ほどの5番議員さんの質問とバッティングをいたしまして、同じような質問内容でございますけれども、ひとつなるべくバッティングしないようなことで質問をしていきたいというふうに思いますので、よろしく執行部の方、お願いいたします。

議長の登壇のお許しをいただきましたので、ただいまから私の、吉原ですけれども、一般質問を始めさせていただきます。

（全般にモニター使用）平成24年度の学校生活が始まりまして2カ月が経過をしたところ です。新聞、テレビ等で毎日毎日、交通事故のニュースが報道をされております。

まず、第1点目に交通安全対策についてお尋ねをさせていただきます。

今年4月12日13時ごろ、京都市東山区の繁華街で祇園の交差点で横断歩道を歩いていた人に軽ワゴン車が突っ込み、歩行者の男性2人、女性5人が死亡し、11人が負傷し、運転をしていた30歳の男性も電柱に激突をして死亡いたしております。

また、4月23日、京都府亀岡市で集団登校中の小学生らの10人の列に軽自動車から突っ込み、小学2年生の女の子と子どもに付き添っていた26歳の女性が死亡をいたしております。この女性は妊娠7カ月だったそうでございます。運転をしていた18歳の少年は無免許で、一晩中車で走っていて、居眠り運転だったそうでございます。

それに、4月29日、午前4時40分ごろ、関越自動車道で高速バスツアーのバスが、防御壁に衝突、大破して、乗客45人のうち、男女7人が死亡、女性3人が重体、35人が軽傷を負った事故で、運転手も重傷を負って、その後、逮捕されております。

全国的に、2011年、1年間の交通死亡事故者数は、前年より252人少ない4,611人で11年連続で減少をいたしております。警察庁のまとめでは5,000人を下回ったのは3年連続で減少傾向について、警察庁は高齢者への安全運転対策などが一定の効果を上げたと分析をいたしております。

死亡事故全体の65歳以上の高齢者が占める割合は49.1%、いわゆる50%を割っております。飲酒運転による死亡事故者数は267件で、統計のある1990年以降、最少だったそうでございます。

佐賀県では、平成23年には人身事故数は9,291件、負傷者は1万2,328人、死亡者が49人で50人を切ったのは2年ぶりで180人が死亡した1991年以降、2番目に少なかった数だそうでございます。

また、武雄警察管内では平成23年に人身事故件数は531件、負傷者が698名、死亡者が7名です。年齢別では10歳代の男性、これ高校生でございましてけれども、バイクの高校生です、1人、20歳代では2名、50歳代で1名、60歳代で2名、70歳代で1名の計7名が死亡をされ

ております。先月の5月は、自転車のルールとマナーアップ月間ということで、地域、学校等でいろいろなキャンペーンまたは指導が行われたと思います。

まず、武雄市内の各市立の中学校の自転車通学の実態はどのようになっているのか、各学校別にどれぐらいの生徒が自転車通学をしているのかをまず第1点目にお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市内中学校の自転車通学生の状況でございます。

武雄中学校が342名、52%になります。武雄北中学校が110名で97%、川登中学校が98名で85%、それから、山内中学校が214名で81%、北方中学校が100名で49%という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤）〔登壇〕

今聞きましたけれども、やはり北中が110名、97%、川登が98名の85%、非常にやっぱり高いですね。これは、自転車の通学の許可の条件があると思います。仮に、学校から何キロ以上はいいとか、何キロ未満は許可をしないとか、いろいろな条件があると思いますけれども、どのような条件になっているのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

例えば、武雄中学校の場合は大体2キロメートル以上あるところ、それから、部活動をしている子どもたちは1.5キロメートル以上ということ。あるいは北方中学校も2キロメートル以上ある生徒ということでございます。

武雄中学校はもう御存じのとおり、駐輪場もかなり300名を超す子どもたちが自転車で現在も来ているわけでありまして、駐輪場の関係等もあるようであります。

北中、川登中、山内中については、希望者については許可をするというような状況でございます。以前と比べ、生徒数が減っているというところもあるかと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

なぜ、この質問をしたかという、5月はここに出しておりますけれども、5月は自転車のルールとマナーの月間なんですね。それで、いろいろ全国的に佐賀県も、また武雄市でもすけれども、いろいろな運動が展開をされたと思います。紹介をさせていただきますと、伊

万里市では国見中で自転車の150台のブレーキやタイヤの空気圧、ライト、サドルの高さなどを点検、要するに、自転車屋さんを呼んで、そしてまた、警察も立ち会いのもとに点検をしたとか、佐賀市内では、佐賀は自転車の通学が物すごく多いもんですから、もちろん高校もですけども多いわけですから、街路で警察官が5メートル置きぐらいに立って指導をしたというような記事も載っております。

また、武雄市では青陵中学で自転車の点検がなされております。ほかに、武雄市立の中学校としてどのような、そのような点検とか、自転車の指導とかいうのがされたのか、その実態をお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

特に、新入生を中心にして4月、5月と自転車通学になれるまで、またこれも非常に心配なわけでございます。したがって、各学校が交通安全も含めまして、いろんな面の安全計画を立てるわけではありますが、特に4月、5月につきましては自転車点検とか、通学路の確認とか、あるいは春の交通安全運動に沿った自転車の注意とか、さまざまな意味で、その自転車の乗り方について、あるいは通学の仕方について指導をしているという状況でございます。各学校とも取り組みが見られます。

**○議長（杉原豊喜君）**

17番吉原議員

**○17番（吉原武藤君）〔登壇〕**

先ほど、私、武雄の県立の青陵高校で自転車の点検があったと申しましたけれども、武雄の青陵中学はこの期間に入ってから、市内の4つの自転車店に協力をしていただいて、交通安全協会と合同で、もちろん市も参加をしていただきましたけれども、自転車の点検、いわゆるライト、タイヤ、ブレーキ、そして不備がないかというふうなことで点検をしていただいて、今、ここに画面に出ておりますけれども、TSマーク、赤と青と2種類あります。これは、資格を持ったプロの自転車屋さんがちゃんと点検をして、自動車という車検と同じようなものです。これを青陵中学では点検をしていただいて、それに合格したのは、この赤いTSマークを張りつけたと、このTSマークというのは、もう皆さんたちも御存じだと思いますけれども、これは保険です。TSマークの種類には2種類あります、青と赤マーク。青の分については、3センチ掛ける5センチ、赤については3.5センチ掛ける5センチ、このステッカーに合格した青陵中学の自転車が全部で162台中、点検をして140台はパスしたけれども、あとの22台はパスしなかったと、このステッカーを張ってもらえなかったということです。というのは、このステッカーは自転車屋さんから新車を買うときにはこれがついております。これは保険です、これ1枚500円するらしいです。そして、1年間しかもちませんから、

次、2年目からは自転車屋さんに行って点検をしていただいて、その点検の手数料とこの500円を払ったらこれを張ってもらえると、これが去年は自転車で死亡事故があった、佐賀県ではありませんけれども、1億1,000万円の損害賠償請求を受けたというようなことで、非常に今、これが見直されております。

そのようなことで、このとき、青陵中学ではこの費用はどうしたんですかと聞いたら、佐賀県の交通安全協会から寄贈していただいた、そして張ったということなんですね。ですから、武雄市内では武雄の市立の中学校では、いわゆるこういうステッカーの自転車許可をするときに、このような取り組みといたしますか、規則は設けていないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市立中学校では、この制度、やり方はとっていないと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

武雄地区の交通安全協会というのがありますので、ひとつ相談をして、そこら辺についてはいろいろ県からの、協会からの活動資金も来ておりますので、そこら辺については協力をしていただけるものと思いますので、そこら辺については前向きにひとつ検討もしていただきたいというふうに思います。

次に移ります。

5月26日に第19回の交通安全子ども自転車競技大会が山内町の体育館でありました。この大会は各小学校から出ていただきまして、きょうの午前中にも話があってございましたけれども、なかなか少子化で子どもがいないと。ですから、各小学校ですけれども、小学校で1チーム4名ですけれども、4名の人間がそろわんということで、不参加の小学校もありました。去年も不参加が1校ありました、ことしも1校ありました。

そのようなことで、やはり、今の子どもたちは大変忙しくて、部活をせにゃいかん、そして、塾に行かないかんというようなことで、そういう時間はとれませんということが大多数の子どもたちの意見です。ですから、私も指導に10日ほど行きましたけれども、なかなか子どもたちがそろわんのですね。そして、時間がないもんですから、4時から4時半まで30分、30分しか練習をする時間がなかったんです。そして、5月26日に山内町のスポーツセンターで大会がありました。これ物すごい高度な技術が要ります。私たちでは、こういうコースを通ることができません。ちゃんと手信号もして渡ります。このコースだと約5分かかります。5分かかって、真っすぐな10メートルを30センチの幅のところを25秒かかってゆっくり走らないかんのですよ、足ついたら減点されますから、そういう私たち大人ではほとんど乗るこ

とができません。これを本当に子どもたちは練習をし、そして、学科がまた厳しいんですね、学科が難しいです。私、学科を試してみましたけれども、とてもじゃなか、わかりませんでした。

それで、この自転車競技大会は今回で19回目だったですけれども、山内町の西小学校のAチームが優勝しました。それから、準優勝が北方小学校です、そして、朝日小学校が3位だったんですけれども、これは主催は交通安全協会ですけれども、それから武雄警察、武雄市、教育委員会も協賛ですね。この問題について、この大会について、教育委員会としてどのような対応をされたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

午前中の話題のときもあったわけですが、非常に学校で子どもたちのときに身につけさせたいことというのがたくさんあるわけでありまして。例えば、早寝早起き朝ごはん、学校ではできることは何もないわけですね。家庭ですけれども、指導は学校でしているわけですが、実際にですね。あるいは、トイレであったり、歯磨きであったり、あるいはもういわゆる基本的な生活習慣といえるもののかかりを実際には学校で指導しているというような状況もございます。

また、今、議員おっしゃったように、部活であってみたい、いろんな活動が子どもたちあるわけで、学校で最低限しなければいけないことは何かと考えたときに、本当にこの自転車の指導も必要かというのはどの学校でも議論はしてきました。しかし、これだけ交通安全の面で、子どもたちをしっかりと指導しなければいけないときに、この自転車も事故としてもやはりあるし、あるいはこの時期に指導していなければいけないことではないかということで、市内ほとんどの小学校で時間的には工夫をしながら取り組んでいるという状況かと思えます。

そういう意味で、練習としてはもっと十分やりたいということもあるかもわかりませんが、限られた時間の中で、そういうふうな指導を協力を得ながらしているということだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

先ほど優勝チームが山内の西小学校と言いましたけれども、この賞のほかに教育委員会から何か賞をいただいておりますけれども、あれはどんなものだったんでしょうかね、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

### ○浦郷教育長〔登壇〕

今、申しましたように、何人かの代表選手が出場するわけですが、そして、非常に難しいコース、難しいテスト、学科も私も60問しましたけれども、七、八問間違えました、かなり難しいテストであります。

そういう子どもたちが四、五人いるということはどういうことなのかというと、そういう練習の風景はほかの子どもたちも見ているわけでありまして、そういう技術を持っていることも見るわけでございます。ですから、この子たちをほかの子どもたちとつなげて、交通安全の意識を高めてもらうという必要があるというふうに考えまして、3年前から武雄っ子自転車ベストドライバー認定証を差し上げて、そして、その学校区、校区で中学生になってもそれこそ自転車で通ったりするわけでありまして、模範となって交通安全、事故の防止の先頭に立ってマナーを守ってしてほしいという思いで差し上げているわけでございます。

### ○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

### ○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

この認定証は、物すごく子どもたちにはやっぱり名誉だったらしいです。やはり、今、教育長さんも言ったとおり、学科を私もしてみましたけれども必ず幾らか間違えます。もちろんひねくった問題もありますけれども、交通法規というのは子どもでも大人でも一緒なんです。子どものときは幾らかしか違いません。ですから、確かに成人してからもいい経験になると思うわけですね。そして、やはりその練習を体育館でされておりましたけれども、やっぱり子どもたちが放課後、時間がある子が見に来るんですね、やっぱり。それで、僕もしたいなというような子どもたちも何名もいましたけれども、何せ人間に限られているものですから、先ほど生徒数が、答弁があってございましたけれども、朝日小学校は410名近くいますから、それは2チームぐらいはできると思いますけれども、本当にしたい、したいという人も後から出てきました、初めのうちは引っ込み思案で嫌、嫌って言っていたんですけども、後からは結構多くなってきました。

そして、私がこの自転車を何で今回取り上げたかということ、ことしに入ってから佐賀県で343件の自転車の事故がっております。全体の20%は自転車です。ですから、やはり、自転車の教育というのは子どものときからしておかないかんというようなことで、こうしてきょうは出したわけです。

そして、5月29日の新聞だったんですけども、自転車のルールとマナーモデル校に佐賀東高校、佐賀女子高等学校を含む6校を指定したという記事が出ておりました。特に、佐賀市内というのは、先ほども言いましたけれども、自転車が物すごく多い地域です。佐賀市内には自転車の専用道路もあります。1カ所か2カ所しかありませんけれども、それでもやはり事故が多いということで、佐賀の高校はそのような指定をして教育に取り組んでいるとい

うようなところらしいです。ということで、私は今回は自転車の交通安全ということで取り上げたわけです。

それから、ことしの1月から4月まで、武雄の警察署管内で自転車の反則切符、赤切符をもう7件切ったそうです。どがんことかと言うたら、やはり携帯電話をしながら、こうして自転車で乗っていくと、そして、音楽を聞きながらというようなことが今、非常に多いらしいです。ですから、恐らく赤切符ていうのは1回か2回では切らんはずですから、何回も注意を受けた子どもたちだと思いますけれども、そういうこともちよくちよくあっているようです。

では、次に移りたいと思います。

次は、高橋武雄線、朝日小学校から県道中野線に行く約3キロぐらいありますか。あの市道の今、拡幅工事がもう最終段階に入っております。もうあと数日で完成をしたいと思いますけれども、その状態はどうなっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

現在、施工しております改良工事につきましては、今月末で完了いたします。その後、舗装を予定しております、これも7月末には完成することになっております。したがって、これをもちまして全線が完了するということになります。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、ここに写真を出しておりますけれども、これは先ほど5番議員さんが使ったのと余り変わりません。本当にすばらしい道路を拡幅していただきまして、大変朝日町民喜んでおります。ここは、この道路拡幅と、先ほど信号機がありましたけれども、もう二十数年にわたって陳情、陳情をしてきたわけです。やっと今回完成をして、本当に子どもたちの通学に、安心して通学してもらえるもんだなと思います。

そこで、こう行って私はかってみました。これは、ここがこっちがJAの朝日支所です。これから、甘久のほう、ここ御船山が見えますけれども、武雄の市街地に行く道です。ここに歩道幅が3.2メートル、車道が約3メートル、ここまで3メートルです。向こうに路側帯が2メートルあります。そしたら、私はここに標識を書いておりますけれども、先ほど5番議員さんも質問されておりましたけれども、これは歩道を自転車が通行してもいいですよという標識なんです。これが、私も最近まで余り知りませんでした。真っすぐ見ていくもんですから、これは上に、高いところにこの看板上げてあるんですね。ですから、もう自転車にでん乗って行きよったらまず目につきません、遠くから見たらわかりますけれども。

ですから、これがここからここまでというような看板が上がっております、中間にも上が

っておりますけれども、子どもたちもこれをなかなか知らんわけですね。ですから、私がお願いをしたいのは、この路面に、これと同じ標識、これは上に上げてある標識ですから、自転車が通行してもいいですよというのを路面にシールのようなものを張ったらどうかという質問です。

これを警察に行って聞いてみましたが、道路管理者、地元、警察が合意やったらいいんじゃないですかということだったんですね。そしたら、自転車に乗って行きよったら、ああここ通ってよかとばいねとわかるわけですね。

ですから、そのようなことができないか、この標識。先ほど来、答弁にあっておりましたけれども、武雄市には75カ所ぐらいあります、自転車通行いいですよというところがですね。それで、結構狭い道もあるんですよ、2メートルぐらいでもう許可になっているところがあります、75カ所のうちにですね。8キロメートルぐらいありますけれども、こういう大きな道には、こういうふうにしてその標識ができないか、路面にですね、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、これは余り効果がないと思いますね。それをやったにしても、まず、これがついているところというのは、これは一般質問じゃなくて、それは公安委員会におっしゃってほしいと思うんですよ。それで、なおかつ、先ほど山口良広議員にもお答えしましたが、やっぱり色分けをしないと、幾らこんなのやっても、やっぱりこれ量が多いから問題であって、色分けをして、こっちは自転車、こっちは歩行というふうにしたほうが、多分、子どもたちもわかると思いますし、我々は山口良広議員にお答えしたとおり、そういうふうに色の分離でいきたいと思っていますし、かつ、ポールも一定必要だと思っていますので、ちょっと仙台を見習ってやってまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

はい、わかりました。

佐賀にありますけれども、自転車の通る自転車帯というのは、完全に佐賀では分離をしています。あれが本当の姿だと思いますけれども、しかし、私が言いたいのは、これはこれであっていいとですよ。ここにこういうのがあります、交通ルールに。普通、自転車は道路標識等で通行できるとされています、標識が上がったたらですね、これが上がったら通行できます。しかし、運転者が幼児、6歳以上13歳未満、それから、70歳以上の高齢者及び身体の不自由な人の場合は、歩道を自転車で走ってもいいとなっていますよ、特例がある



んですね。そいけんこれがなくても、こういう70歳以上の人とか、身体が不自由な人は通ってもいいわけです。私もこういう道交法があるのは知りませんでした。しかし、そりゃおかしかりょうもんって言ったら、こういう冊子をいただいたら、冊子に確かに書いてあります。

こういうことで、私は事故が起きないようにということで、そういう要望をしているわけです。

では、次に移りたいと思います。

先ほど、これも5番議員さんが質問されておりましたけれども、歩車分離式信号というのがこのJAのところにつきました。これも二十数年要望してやっとできましたけれども、車道、車のほうは青なんですね。歩行者のほうは赤なんです。ですから、この場合は歩道は全部赤になっています、車道は青です。こう行きます。もちろん、こっちは赤になっておりますけれども。そしたら、歩行者がここにボタンがありますけど、ボタンを押したら全部4面が青信号に変わります。そしたら、車はどこからでも入れません。

ですから、これが何でこういうふうにしたのかというのは、やっぱりその通行量とか、その条件ですね。要するに、この信号のところというのは、自動車の通行は割とありますけれども、歩行者の通行というのは割とないんです、小学校の通学時と下校の時は多いですけども、普通の時間帯には余り歩行者はありません。ですから、これが一番いいだろうということで、公安委員会の判断が、こういうふうにつくったらしいです。これ佐賀県にはまだ二、三カ所しかないそうです、これ試験的につけたということですけど、確かにすばらしいです。

車にしても、自分の青の方向に進行して、左折しても、右折しても歩行者が何も歩いていないわけですから安心して右折も左折もされるわけですね。

そういうことで、非常に安心して歩行者は通れます、また、車も安心して右折、左折されます。これもそうです。今、子どもたちが歩道を通っておりますけれども、歩行は4面全部青になっております、ここは。ですから、車道は全然車が入ってくることができません、どっちも。ちょうどこれは1月の23日やったかね、朝10時から点灯式がありまして、私もちょっと行きましたけど、これは危ないなと思って、私も10日間ほどここに、下校時間に立ちました、寒かったですけど。そしたら、先ほど質問があつておりましたけれども、これまで黄色と赤の点滅やったもんですから、そのつもりで点灯式をやった後はすつと車が入ってきて、赤信号やけんぱつととまって、ぱつとまた出るわけですよ。これまで点灯式やから、それが頭にぬかっつもんやけん出るわけですね。これは危ないということで、交通指導員さん、そして、警察に頼んで、ここを私も10日ぐらい立ちましたけど、それから小学校の校長先生とか、指導員さんとか、寒かったですけど立ちました。それから、まだ1件の事故もあつておりません。これが本当に、この場所については最高の信号です。都会にはスクランブル信号といって、どこにでも行けるのがありますけれども、それとはちょっと違います。これは、あくまでも歩道しか通れない、これを斜めには通れんということです。ということで、

紹介をさせていただきました。これは、もう答弁要りません。

そして、次の問題に移ります。

平成22年度、これちょっと古い話ですけども、平成22年度に朝日小学校で武雄市教育委員会、それと朝日公民館の主催で朝日川見守り隊っていうのができました。どういうものかといったら、とにかく朝日川というのはもちろん水害のここは常襲地域ですから、水害のメッカです。そこで、後で出てきますけれども、この前、6月3日に県下一斉の美化活動がありましたですね。それがあつたもんですから、これを引っ張り出してきたわけです。その県下一斉の美化活動で武雄市がどのような対応をなされたのか、どれぐらいの人が参加をして美化活動を行っていただいたのかというのをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

県下美化活動のことについての御質問でございます。それにつきましては、佐賀県環境の保全と創造に関する条例という県条例に基づきまして、環境美化の推進について県民の関心と理解を深めることを目的とするということで設けられております。毎年5月30日から6月5日までの間に、県下一斉ふるさと美化活動として美化活動の展開が行われております。もちろん、主催は佐賀県、県内20市町、ストップ温暖化県民運動推進会議等になっております。

武雄市内における活動実績でございますが、今年度は6月3日に行っておりまして、参加者は大人が1万700名、子どもたちが1,200名、合計で1万1,900名の参加を得ております。これは、市民約4人に1人が参加していただいたということになると思います。

それから、集まったごみの量でございます。可燃ごみで約2,800袋、不燃ごみで約1,500袋、1袋5キログラムに換算いたしますと約21.5トンのごみが回収されたということになるかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

この朝日川見守り隊は、いわゆる今ごみが21.5トンぐらい美化活動で集まったと。これは河川の清掃とか、それから、魚の生態等を調べて、いろいろ調査をして、そして、子どもたちが30名ぐらいで行ったこの見守り隊です。これ見守り隊には、ここに主催に武雄市教育委員会と朝日公民館ってあるんですけども、教育委員会としてどのような応援をされたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

朝日川見守り隊についての御質問ですので、平成22年度に年間を通じて計10回ほど活動をなされております。ただいまありましたように、水質検査をしたりとか、それから蛍の観察をしたり、水辺の生態系の観察をしながら、環境問題に取り組んでもらっております。

朝日小学校の4年生から6年生までの計39名の子どもたちに参加をしていただいております。朝日川は生活排水等で非常に水質が悪くなったりとか、悪臭を放つこともあったようでございますけれども、そういう朝日町の町民を挙げての朝日川クリーン作戦の取り組みとともに、子どもたちのそういう水質検査とか、蛍観察とか、そういう活動を通じながら、自然環境への関心を高めることができたというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

17番吉原議員

**○17番（吉原武藤君）〔登壇〕**

ちょっとこれは、子どもたちが魚をとって、どういう魚がいるかということで魚とりをしているところです。こういうことで報道もしっかりしていただきまして、こういうのが新聞報道にされたわけです。

（新聞記事を示す）これは新聞の半面です。

そしたら、私のところに電話がかかってきました。「武雄の朝日っていうないば、吉原君、あんたのおるところじゃなかや」ということで電話がかかってきましてね。「何ですか」と言うたら、実は全釣り協という団体があります。社団法人全日本釣り団体協議会という全国組織の団体であります。これには、佐賀県支部というのが佐賀市にあります。その会長さんから電話がありまして、すばらしいことをやっているから、子どもたちがしているから、何か応援をしたいということで電話がありまして、それは結構なことです、何でもいいですから応援してくださいということでお願いしました。すると、よく考えてみたら、私は平成9年に永島の池ノ内の堤、あそこで平成9年8月に、夏休み親子ふれあい釣り大会というのをしたのを思い出しました。それが、約500名ぐらいの親子に参加をしていただきまして、そのときに、魚釣るのもあれですけども、ごみ拾いをさせたんですよ。ごみ拾いをして、袋をやって一番多くごみを集めてきた人はごみの部1位、2位、3位、4位ということで、全部賞品をつけました。そのときに、その賞品代とかなんかに使ったのが、この日本釣り団体協議会からの支援金でしたわけです。

ですから、そのときには、ここの6番議員さんもそのとき参加されました、親子三代で。三代で参加をしていただきまして、テレビにも映っていただきまして、RKB毎日のテレビ、30分番組をつくっていただきまして、四国、九州、沖縄の9局ネットで流れました。そのときは平成9年だったですから、ちょうど炎の博のときです。武内の飛龍窯ができたときです。ですから、そのRKBの30分の番組の中に飛龍窯と温泉の楼門もPRしていただきました。

そういうことがあったもんですから、そしたら、向こうも覚えとったわけですね。そいぎ

ん、ぜひ支援してくださいということでお願いしました。すると、これは発表会です、この見守り隊の発表会のときに支援金を持ってきていただきました。そのとき、この人は公民館の館長さんです、朝日小学校の校長ですけれども、これはもうちゃんと了解いただきました。ということで、この団体に、こういうことで支援をしていただきました。

そういうことで、やはり、この新聞というのは本当に効果があるなど、すばらしい企画だったなど、その後、まだずっと続いております。これは平成22年ですけれども、その後は平成23年には農業体験、そしてから、ことしの平成24年度は朝日の自然を見つける隊っていうのがこの間発足になりました。

ということで、この見守り隊がずっとことしまで3年目続いております。これまでにはぜひ公民館、そして、教育委員会も応援していただいて、続けていただきたいと思っております。

それで、子どもはこういうふうにして一生懸命頑張っているわけですね。ところが、これは3月22日の3時半ごろ私に電話がありました。朝日川に魚のいっぱい浮いとると、そいぎ、私は小さいカメラですからよう撮れませんでしたけれども、これは生活環境課に来ていただいて、回収をしていただきました。これはコイです、30センチか40センチありますけれども、コイが死んどったわけですね。ここ見てください、もうべらべらしとるわけですね。ここら辺にはいろいろ企業もないし、何もなし、きれいな水が流れているはずですがけれども、ここら辺にしていっぱい死んどったわけですね。そいぎ、生活環境課に来ていただいて調査をしていただきましたけど、わかりませんでした。そのときは、夕方やったからもう一応5時半ごろ、生活環境課の職員さんは帰られました。そして、あしたの朝から来て、もう一回調べましょうということになっておりましたけれども、その日は朝までに何と80ミリの雨が降ったんですね、それできれいに流れて、もう立派な川になっておりました、その原因究明にはなりませんでしたがけれども、やはり、せつかく子どもたちもこうして頑張って河川の浄化にも取り組んでいるわけですから、ひとつだれでも気をつけていただきたいというふうに思っています。これは生活環境課、ちょっとこいどういう経過やったのでしょうか、結果は。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

概要につきましては、先ほど吉原議員さんが話されましたので、大方のことは今、お話しいただいたものと思っておりますけど、結論的に言いますと、武雄市の環境課の職員がペーハーとか、DOとかははかったんですけれども、酸欠ではなかったということは調べております。また、それに対してじゃあ魚毒性の何かは流れてきたんじゃないかなということで、この特定がなかなか難しく、じゃああすもう一度というようなことで別れて、その晩が大雨だったという結論で、結局は原因を特定することができておりません。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

幸いな雨だったと思います。本当にあれを究明したら、ちょっとまた連絡をもらおうと思っておりましてけれども、次に移りたいと思います。

次に、河川の環境についてお尋ねいたします。

武雄市では、市民の生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するために公共下水道事業、農村集落排水事業、単独、それから個別の浄化槽設置を推進されています。当初、武雄地区の公共下水道の計画は、当初は426.5ヘクタールだったと思います。その後、修正をされておりますけれども、今現在、公共下水道のエリアというのはどれぐらいの面積になるのか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

細かい数字を持ち合わせておりませんが、エリアの構想の見直しをした折に、その四百何ヘクタールがたしか275ヘクタールに落ちているというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

ちょっと私が言わなかったのは、私が持っている資料が余り古かとかかなと思って、平成22年9月に資料をいただいております。そこには、426.5ヘクタールを257ヘクタールに縮小がしてありますね。それが、今後20年間、平成42年まで、これ去年、おととしのことですから、257ヘクタールをしてありますけれども、これが今、どれぐらいの、その進捗率がどれぐらいになっているのか、公共下水道ですけれども。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

公共下水道に限って申し上げますと、現在の普及率は2.35%ということになっています。これにつきましては、公共下水道の処理人口が1,200人ということでございますので、今のところ2.35%の普及率でございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

2.35%、そしたら、42年っていうたらまだ随分ありますけれども、大体それに合わせた数字が257という数字になっていると思いますけれども、なかなかその地域の工事は進んだけ

れども、なかなか接続ができませんというのも結構あると思います。要するに、その家の形態とかなんとかで、そういうことで、その接続の状況というのはスムーズに行っているんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

通告をちょっと受けていなかったものですから、ここにほかの議員さんたちの質問等のお答えを持っていましたので、それを参考に。（発言する者あり）

〔17番「進捗率って言うのってばってんにゃ、よかですよ、そしたら」〕

進捗率はわかりますよ。私が聞いているのは、公共下水道の普及率あるいは農業集落排水の普及率、個別浄化槽の普及率と、これを調べてくれというようなことは聞いております。それでよろしいですか。

〔17番「はい」〕

それでは、先ほど公共下水道について申し上げましたので2.35%です。それから、農業集落排水の処理人口につきましては、20.71%、浄化槽の処理人口につきましては31.68%ということで、合計の処理人口でいきますと2万7,964人ということで、行政人口が5万1,000人ですから、約54.7%と、この程度になっております。県平均が73.4%でございますので、以前に比べますと、相当県平均に近づいてきたということだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

私は聞いたつもりだったとですけども、では次に移ります。

次は、太陽光発電について質問したいと思います。

温室効果ガス排出量が2020年までに1990年比で25%を削減すると、政府目標見直しをせざるを得なくなったと、削減目標に関し原発にかなり依存する前提ではじかれた数字だと、見直しが必要になるのは間違いないというようなことで、原発稼働率が従来のように見込めない環境の中でどうなるのかということでございます。

武雄市では、今回の節電対策ですね。要するに、きのうも質問が出ておりましたけれども、どのような節電対策をされているのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

昨日もお答えいたしました。昨年からは夏季の節電対策として冷房温度を28度以下、それから、ウルトラクールビズの推奨、緑のカーテン、この3つ等を行っております。そして、

通年でございますが、パソコンの切断とか、それから残業禁止令、そういうものを行って相当の効果を上げているというふうに認識いたしております。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

私もきのうまではネクタイを締めておりましたが、きょうはネクタイを外してきました。そういうことで、大変経済的にも効果が出ているのじゃないかと。そして、よく市民の方から言われます。市役所の職員さんは本当にクールビズで涼しそうですねと言われます。それで、恐らく仕事の能率が上がっていると思いますけれども、その評価はいかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

上がっていると思いますよ。やっぱり汗だくになって仕事っていうのは、効率が上がりませんしね。ただ、数字でどうこうっていう、それはありませんけれども、一番きょうも、実はどこだったけな、今、議会中ですので、議会の視察はありませんけれども、大川市のJ Cの方々がお見えになっておられまして、私に会いに来られましたけれども、職場を見て回って、やっぱりきびきび仕事をしていると、あるいはみんな元気にあいさつをしているということで、非常に高く評価をいただいておりますので、これに安住することなく、さらに元気に活発に、そしてきびきびと仕事をする、その先頭に立っていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

九州電力では、7月分の電気料を標準の家庭で月額大体30円ぐらい値上げをすると、これも2カ月連続で値上げになるわけで、そこで、いわゆる住宅用の太陽光発電システムが物すごく伸びてくるのではないかなということで、武雄市は補助金を支給されておりますけれども、どのような補助金の形態になっているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

太陽光発電のパネル設置に対する補助金でございますけど、武雄市では現在、1キロワット当たり2万円ということで、ただし限度額5万円という補助制度を設けております。

予算上200件ぐらいを目標にしておりまして、現在、既に56件の申請がっております。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

武雄市もですけれども、佐賀県は住宅用太陽光発電システムの普及は全国でトップレベルらしいですね。昨年末の普及率は、前年度の5.8%から7.6%ですので、1.8%もアップしております。佐賀県は太陽光発電王国とまで言われております。九州は日照時間と晴天率が物すごくいいそうございまして、国、県、市の設置補助金の交付金の導入もあって、非常に設置が進んでいるんじゃないかと。ここで、固定買い取り価格制度を九電が7月1日からするわけですが、42円で買い取りをするということでございます。そのようなことで、もう既に56件が申し込まれているということでございます。

そこで、この武雄市は最高5万円ですけれども、県もあるわけですね、県も国も。県は上限10万円、そして、国が、要するにその機種によって補助金額が違うんですね。1キロワット当たりの単価が3万5,000円を超えて47万5,000円以下は、1キロワット当たり3万5,000円、47万5,000円を超えて55万円以下は3万円ということで、大体武雄市の平均のキロ数の設置は大体幾らぐらいでしょうか。（発言する者あり）

いいです。私は環境部からちゃんと資料をもらってきて、こういうこととっておりますから、いやいいですよ。平均の武雄市は4.4キロワットらしいです。それが、補助金3万円、大体国の4.4キロワットをつけて13万2,000円ぐらいあります。そして、県は、いただいてきているんですけど、県は10万円あります。ですから、二十五、六万円あるわけですね。ですから、非常にこれがこれから普及するのじゃないかということで、補助金が足らんごとなあじやなかろうかと思えますけれども、これも聞いとらんやろう。（発言する者あり）はい、もういいです、そしたら。

私が一番心配するのは、42円で九電が買い取るわけですから、普通電気料金っていうのは夜の電気なんかというのは8円ぐらいで使いよっとですもんね。昼間でも三十二、三円です。それを42円で九電が買い取るということになれば、先行きどうなるかというのが一番私は危惧をしております。最終的に、この買い取る分については利用料金にはね上がるということが新聞に書いてあります。ですから、最終的には自分たちが発電して九電に売った電気、その分の負担をみんなで分かち合うような格好になるわけですね。

ですから、これもいかなもんかなと、そいけん、余り太陽光発電が普及してもパニック状態になる。要するに、自分たちが使う料金が上がるとじやなかろうかと、新聞にそう書いてあります。ということで、これから、武雄市として、この太陽光発電をどのように推進をしていくのか、そこだけお尋ねして最後にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕



まず、議員各位にお願いがあるんですけども、資料をいただいたからといって、その資料をどうでしょうかと聞かれても、我々それをもって、ここで持っているわけじゃないんですよ、膨大に1万枚以上の資料がやっぱりありますのでね。だから、そういった場合は、これは例えば通告でこの資料を使うであるとか、あるいはいただいたのであれば、それでこの資料にはこう書いてあるということだけだしていただかないと、そこでやっぱり十分な議論には私はならないと思っております。

その中で、お答えをしますと、私ね、太陽光の発電をどんどんやるといってパニックになることはないと思いますよ。そう書いた新聞はどうかしていると思いますね。そうならないのが、多分日本の私はよさだと思っていますし、我々は何でこういうことをやるかという、やっぱり政策目的として、やっぱり原発だけに頼るわけにはいかないと、特に3.11以降はみんなそう思っているんですよ。ですので、太陽光を100%広げるといようなやぼな目標は立てておりません。しかし、代替エネルギーとして、一歩でも二歩でも広がっていく、そのためのお手伝いとして我々は太陽光発電に対するその補助制度、一たん私やめようと思いましたがね。議会から御指導いただきまして復活になりましたけれども、そういう思いでやっております。

今後の自然再生可能エネルギーについては、比率は高まっていくと思います。これは、私はブログでも書いていますし、議会でも再三答えていますけれども、ぜひ、代替エネルギーが産業化するという、これをぜひ求めていきたいと思っていますし、こういった企業をぜひ誘致していきたいというふうに思っています。すなわち、単にこれが代替するではなくて、ちょうどオイルショックのときに、今から40年前のオイルショックのときに、もうオイルが足りないといったことで原発の必要性が出てきたみたいに、今度はその当時のオイルが原発であるわけですね、もう使えないということで、自然再生可能エネルギーが産業として確立する日本というのは、その知恵も努力も強靱さもあるというふうに私は信じていますので、その後押しをぜひ、市政の一端ではありますけれどもサポート、お手伝いをしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

17番吉原議員

○17番（吉原武藤君）〔登壇〕

これで私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で17番吉原議員の質問を終了させていただきます。